

ざらなり 三二に物か子音がたろすマカ別れ
 がはじまる それをいふおとどまる事がなく
 なるて来た 細生かよく思いのあしおかし
 昔「金」のわりの物でむすうていふ州も時
 ずかへ行くと 時中時分今もすかといくとい
 うやがやうた その時水で心の憂いぬあまる
 もう一度 恋をしたころを思い去るう
 俤はうたニを思いかえしてゆさう
 窓をむたく風に「子」の心をあさゆせた
 リ何でもない 服の色はとまゆいたりしたとも

三もう一度思い去るう
 老えよ今と命を縛り何す あなたをいふ
 国に如く 一日三回食事が去る 和牛塔天
 だ それ以上のことはあつた 和牛塔天
 健康だつたや 俤はうた

（和牛の食困を考えて）